

令和4年度 第1回 橿原市地域公共交通会議 会議録

日 時	令和4年6月23日(木) 14:00~16:40
場 所	ミグランス4階コンベンションルーム
出席者 (18名)	<p><橿原市地域公共交通会議委員></p> <p>橿原市 市長 亀田 忠彦(会長)</p> <p>橿原市自治委員連合会 会長 榎谷 佐千代(副会長)</p> <p>公益社団法人奈良県バス協会 専務理事 井上 景之</p> <p>奈良交通株式会社 乗合事業部 部長 大西 秀樹</p> <p>一般社団法人奈良県タクシー協会 専務理事 葛城 滝男</p> <p>一般社団法人奈良県タクシー協会橿原支部 支部長 奥野 陽子</p> <p>近畿日本鉄道株式会社 大和八木駅 駅長 西谷 恭幸</p> <p>西日本旅客鉄道株式会社 なら担当室長 松本 茂樹</p> <p>橿原市老人クラブ連合会 会長 植田 紘一 《代理》副会長 山本 良二</p> <p>橿原市障害者団体協議会 会長 寺前 耕一</p> <p>一般社団法人橿原市観光協会 会長 中谷 昌紀</p> <p>国土交通省近畿運輸局奈良運輸支局 支局長 沢井 唯次 《代理》運輸企画専門官 関 尚也</p> <p>奈良県交通運輸産業労働組合協議会 事務局長 今西 宏 《代理》議長 浦久保 幸浩</p> <p>奈良県県土マネジメント部中和土木事務所 所長 牧田 孝光</p> <p>橿原市都市マネジメント部 部長 川田 茂人</p> <p>奈良県橿原警察署 署長 福井 功 《代理》交通課長 今谷 広人</p> <p>橿原商工会議所 会頭 森本 俊一 《代理》理事 辻本 昌弘</p> <p>奈良県県土マネジメント部リニア推進・地域交通対策課 課長 小池 浩司 《代理》主任主事 竹之内 耀大</p> <p><アドバイザー></p> <p>大阪大学大学院 准教授 飯田 克弘</p>
欠席者 (1名)	社会福祉法人橿原市社会福祉協議会 常務理事 高井 剛
事務局 (6名)	<p>橿原市都市デザイン部 部長 小澤 和幸</p> <p>副部長 西岡 幹雄</p> <p>都市計画課 課長 芳仲 敏典</p> <p>課長補佐 服部 剛士</p> <p>副統括 辰巳 豪</p> <p>主査 長井 太志</p>
その他	明日香村総合政策課(議題2に関連)

<次第>

1 開会

会長挨拶

2 基調講演

「地域公共交通の現状と今後の課題」 交通ジャーナリスト 鈴木文彦氏

3 議題

議題1 令和3年度決算報告並びに令和4年度予算（案）について <承認>

議題2 明日香村 金かめ乗合交通の見直しについて <承認>

議題3 檀原市生活交通確保維持改善計画について <承認>

議題4 令和4年度事業計画について <承認>

活性化再生法の概要について

プロポーザル結果報告

檀原市地域公共交通計画策定

1 開会

亀田会長：平素から交通行政にご協力賜りありがとうございます。新しい公共交通の礎となる計画の策定に向けて議論をスタートすることになる。檀原市では、2012年に生活交通ネットワーク計画を策定してから約10年、全国的に超高齢化時代、人口減少が進み、時代が変化する中で相当社会情勢が変わっている。その中で、市民・利用者のニーズが大きく変化している。こうした課題に総合的に対応するために、地域公共交通計画を策定していきたいと思っているので、よろしく願いしたい。なお、今回の会議より、鉄道事業者や商工会議所からも参画いただくとともに、アドバイザーとして大阪大学より飯田先生にも参画いただくこととなった。より良い計画づくりに向けて、皆様にご協力賜りたい。

2 基調講演

○交通ジャーナリスト・鈴木文彦氏による基調講演

「地域公共交通の現状と今後の課題」

3 議題

議題1 令和3年度決算報告並びに令和4年度予算（案）について

事務局より令和3年度決算を報告。

老人クラブ連合会 山本氏より、檀原市社会福祉協議会 常務理事並びに老人クラブ連合会 会長による令和3年度決算監査を実施され、適正であった旨を報告。

事務局より令和4年度予算（案）を説明。

質問、意見は特に無し

議題1について承認

議題2 明日香村 金かめ乗合交通の見直しについて

明日香村総合政策課より明日香金かめ乗合交通について、橿原市内（菖蒲町4丁目）乗り入れにかかる計画変更（案）について説明（計画変更時期は令和4年10月1日を予定）。

質問、意見は特に無し

議題2について承認

議題3 橿原市生活交通確保維持改善計画について

事務局より橿原市生活交通確保維持改善計画及び計画に関連するかしはらしコミュニティバス、八木耳成循環線、神宮イオンモール・神宮観音寺線の利用実績、利用促進の実施結果について報告。

市都市マネジメント部 川田委員：コミュニティバスの利用状況について、平日に比べ土日祝日の利用が少ない。利用を伸ばす土日のルートとして、八木駅～明日香村～飛鳥駅まで誘導するルートへの変更を検討できないか。

事務局：土日祝の利用者が平日の約5分の1となっている理由としては、まず、平日7往復に対して土日祝は5往復で便数が少ないということがある。もっとおでかけの需要に即した形に考えていけないかと考えている。

市も世界遺産登録を目指している中では、藤原京や飛鳥地方への人の流れとして期待できる場所がある。このルートの検討は重要な検討課題として認識している。もし運行するとなれば手続きは必要だが、今後検討していきたいと考えている。

観光協会 松井氏：以前、コミバスを利用して医大に行く人がかなり多いという説明があったが、路線とコミバスの料金は同じになったのか。

事務局：まだ改定に至っておらず、170円のままである。

障害者団体協議会 寺前委員：藤原京・飛鳥の世界遺産登録の動きが出てきているが、受け入れ態勢ができていないのが現状ではないか。世界遺産に登録して、観光客を引っ張ってこようと思ったら、もっと根本的なことからやらないといけないと思う。ただバスを走らせればよいというものではなく、来訪者に喜んで帰ってもらうという施策に取り組みないといけないと思う。

亀田会長：バス路線に世界遺産も絡めてのご意見で、ご指摘の通りかと思う。参考にさせていただきたい。

観光協会 松井氏：観光協会は平安女学院大学と連携し、観光協会が参画して課題解決に向けた授業を実践している。大学生からは交通アクセスが悪いという意見をいただいている。橿原市は結節点として便利であるということを謳っているが、市内での移動は不便というのがある。観光協会として、市と一緒に考えてやっていきたい。

亀田会長：目標設定は、もう少し強気でもいいのではないかという気もする。何か特徴的な新しい取り組みはないか。

事務局：目標については、前年から多少上積みしているところで、本来ならばコロナ禍前の数値を目標としてもよいという考えもある。取り組みの1つの例としては、昨年、橿原高校の生徒の利用促進を行っている。今年度の計画策定の中で、コンサルタントにも協力いただきながら、起爆剤となる取り組み

を盛り込んでいければと考えている。

その他、質問、意見は無し

議題3について承認

議題4 令和4年度事業計画について

○活性化再生法の概要について

奈良運輸支局 関氏より、活性化再生法及び地域公共交通計画の概要及び取り組みのポイントについて説明。

○プロポーザル結果報告

市都市デザイン部長より、令和4年5月25日に3社による企画提案ヒアリングでの審査の結果、最優秀者である中央復建コンサルタンツ株式会社に特定したことを報告。

○橿原市地域公共交通計画策定

事務局より、橿原市地域公共交通計画の策定に向けた調査内容、取り組みスケジュールについて説明。

大阪大学 飯田アドバイザー：コミュニティバスは橿原市独自の資源だと思うが、直接の声を聞かなければ、そこから繋がる市全体の公共交通は良くも悪くもなると思う。アンケートの計画は結構だが、この会議としてコミバスをどう見ているのかを測りかねるし、もう少し踏み込んだ意見がもらえるような仕組みを計画策定業務に入れるべきではないか。

事務局：たくさんの人からアンケートを取ることが正解ではないと思うので、アンケート方法についてはコンサルとも詰めていきたい。皆様の声を聞くという点については、可能であれば委員の方一人一人に聞き取りをさせていただくことも考えていきたい。

大阪大学 飯田アドバイザー：大きな骨組みとして、今後、橿原市のコミバスをどう使って、地域と一緒に発展させていくのかということを書き込むということであれば、そういう観点のアンケートもあると思う。現段階ではそこが漠然としていて、これで進めていかどうかと聞かれても、ちょっと漠然としていて分からないと感じた。

もう1つ、計画全体の枠組みという点について。鈴木先生の講演にあった点を考慮して基本計画・マスタープランを立てようとするのが相当至難の業だと思う。それでも何かを書くということになると、ガイドラインとかテンプレートに沿ったものしか恐らくできなくなると思う。橿原市の地域公共交通は、上位概念・計画を創ろうとしているのか、あるいは、いろいろな資源を踏まえて、個別の事例をいっぱいアイデアとして出してやっていくのかといった大きな方針について、事務局として考えがあれば教えていただきたい。

事務局：地域公共交通計画の策定は努力義務化されているもので、必要な記載事項は決まっていますテンプレートのようなものになり、そこにプラスアルファする部分をどこまで持っていくのかについては、今のところ、アンケート等のニーズ調査の結果等を元に考えていきたい。まずは、国のガイドラインに基づいて策定を進めていくことになると考えている。

大阪大学 飯田アドバイザー：そこについては、計画者である行政がどう考えるか、最終的に決まっていなければ、進まないと思う。

亀田会長：今のご意見を十分に考慮して考えないといけない問題だと思う。努力義務だから、どこ見ても代り映えのないものを作るのではなく、橿原市ならではの地域公共交通計画を作らなければいけないと思う。そのためにニーズもしっかりつかまないといけない。本当のニーズをつかむことが大事だと考えるが、11月までにニーズをつかんで、そこから計画策定というスケジュールでよいのか。

事務局：コミバスに限らず、鉄道・路線バスを含めて公共交通全般について今後様々なことを考えていかなければならない状況である。市内のこの地域にはこの公共交通という決まった形であてはめていくことは難しいと考えている。地域のニーズや、地形・人口といった地域の特性などの状況を正確に捉えなければ、公共交通の適切なプランニングは難しい。

地域公共交通計画の目指すべきところとしては、まず、市全体の公共交通の方向性を示す必要があると考えている。時間的制約があること、また、地区ごとにニーズを把握してそれを計画に落とし込むレベルについて、地域との合意形成やコミュニケーションが取れていないことから、計画に反映させていくことは難しいだろうと考えている。まずは、大きな枠組みを整理する中で、個別の案件を地区ごとに細かく具体的な案として盛り込むことは、今回の計画の中では難しいのではないかと考えている。ただ、課題や地域特性などを整理したなかで、今の段階で計画の大きな枠組みを作って、課題を踏まえて、今後、地域に合った新たな交通手段等を考えていくことになるかと考えている。

枠組みとしては、大きな計画を作ることが前提であり、それをどこまで地域に落とし込んでいくのかについては、この計画の次ということになることを踏まえて、コンサル会社とは相談をしていきたいと考えている。

まずは地域の声を正確に把握する、利用者のニーズを正確に把握する、地域の特性をしっかりと整理するという点が、計画を策定していくうえでの非常に重要な要素であると考えているので、そのあたりの整理をしっかりとしていきたい。

亀田会長：大まかな計画を今回の地域公共交通計画で作り、細かな事業計画についてはそこから作っていくという理解でよいか。

奈良運輸支局 関氏：利用者ニーズの把握、地域特性の把握ができてからということになるが、会長のおっしゃる内容で良いと思う。

亀田会長：11月までにしっかりとしたアンケート調査を行うことによって、ニーズをつかむことは非常に重要なので、ここをしっかりとやってもらって、次回の会議で示していただきたいと思う。

障害者団体協議会 寺前委員：目標をきちんと設定する必要があると思う。いつまでも国の補助金を当てにするのも良くない。利用者の意見を無視することはできないが、利用者ニーズばかりを聞いていたらきりが無い。また、タクシーも公共交通機関の1つなので、これをもっとどう利用するかをもっと考えてやっていくべき。バスが入っていけない道路もあり、そこでタクシーをどう利用するかということも考えて、計画の中に盛り込んでいく必要がある。

亀田会長：すべてにおける公共交通ということなので、鉄道も含めてしっかりと検討をよろしくお願したい。

その他、意見・質問なし

議題4について承認